

介護者の皆様を誤報のストレスから解放します！

# 離床リスク検知センサ

離床直前の状態を非接触で検知することができるセンサです。ベッド上での起き上がり動作を検知すると自動的にナースコールを鳴動させます。



## なぜ離床リスク検知なのか？

### ベッドから降りてしまっはすでに手遅れ

- 「臥床状態からの起き上がり動作＝離床リスク」を検知して、いち早くナースコールを鳴動させます

要介護者が一人でベッドから降りようとする際に転倒による怪我のリスクが最も増大し、床に足をついてしまった時点では転倒している可能性があります。したがって、ベッドから降りる直前の状態を捉えることが重要と考えます。このセンサを利用すれば、ベッドから降りる前にいち早くナースコールを鳴動させることができます。



## 他のセンサと何が違うのか？

### 誤報や失報が圧倒的に少ない

- 起き上がり動作を正確に捉えて寝返り動作と区別します

現在でも起き上がりを検知するセンサは種々販売されています。しかし、最も普及しているタイプのセンサは何らかのスイッチを利用しているものが多く、単なる寝返り動作でもナースコールが鳴動しまったり、検知できずにナースコールが鳴動しなかったりということが少なくありません。センサの誤報や失報が現場職員に大きなストレスとなっていることも否めません。本センサは単なるスイッチではなく、複数のセンサを用いて起き上がり動作を立体的に捉えることで誤報を劇的に減らすことに成功しました。



## 離床リスク検知センサの仕組み

### 2つのバイタルセンサが立体的に動作を判定します

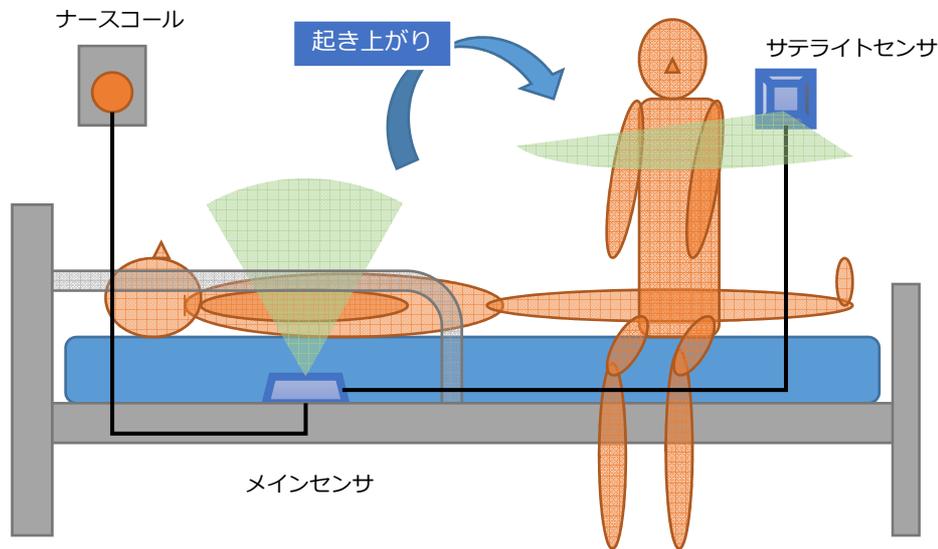
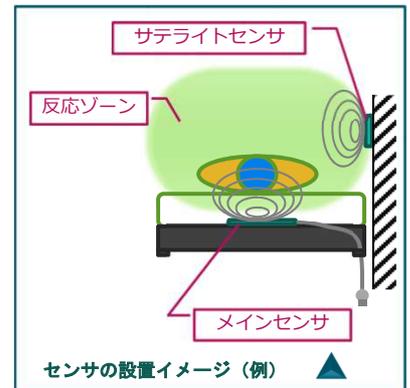
#### □ 二つの方向から同時にセンシングします

メインセンサとサテライトセンサにより検知エリアを限定して要介護者の体動を高精度に検知します。

#### □ センサが反応する順序により判定します

2つのセンサが反応する順序を元に、要介護者の起き上がり動作を判定するため正確な判定が可能です。

(特許申請中/2015.12.15現在)



## センサが捉えたバイタルデータを活用します

### メインセンサが就寝中のバイタルデータを捉えます

#### □ 「呼吸」と「脈拍」に異常がある際もナースコールを鳴動させます

就寝中に要介護者のバイタルデータに異常があった場合にも、いち早く駆けつけることができます。

#### □ バイタルデータを蓄積して可視化します (オプション)

センサが捉えたバイタルデータをWi-Fi経由でクラウドに蓄積することで、可視化したり、就寝中のバイタルデータの変化について分析したりすることができます。

## センサ技術を使った課題解決なら構造計画研究所